



ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		タケノコ採り中、クマと鉢合わせて攻撃を受け、軽傷。	
発生日	年月日	令和4年5月22日	
	時刻	7:20頃	
	天候	晴れ	
発生場所	住所	鹿角市十和田大湯（国有林地内）	
	山/里の別	山	
	環境	ササに覆われた斜面	
被害者	年齢・性別	45歳・男性	
	行動目的	タケノコ採り	
	行動人数	1人	
	クマ対策	爆竹（藪に入る前に一度鳴らした）	
	被害状況	軽傷	
加害個体	頭数	1頭	
	構成	不明（親子の可能性あり）	
	その他		
事故の状況		6人でタケノコ採りに出かけ、被害者は他のメンバーとは離れて採取していた。当時、同エリアには多数のグループが入っており、被害者には他の人のラジオが聞こえていた。2時間ほど採取した頃、突然目の前に現れた体長1mほどのクマから攻撃を受け、一緒に斜面を転げ落ちた。クマは一旦離れた後、再度攻撃してきたが、間もなく逃げ去った。被害者は付近にいた別のグループに救助された。	
考察		至近距離で被害者と遭遇したクマが、自身を防衛するために攻撃したことによる事故と考えられる。付近は夜明けとともに多数のタケノコ採りが一気に入山する場所であり、クマは逃げ遅れたか、タケノコ採りがいなくなるまで隠れてやりすごそうとしていた可能性があり、そこに被害者が知らずに近付いてしまったものと推測される。この場合、鈴などで音を立てても遭遇してしまった可能性はあるが、複数で固まって行動していれば攻撃を受けづらかったかもしれない。	
今後の事故防止に向けて		<ul style="list-style-type: none"> ・複数人で行動する ・万が一の遭遇に備え、クマスプレーを携行する 	
その他		令和4年度1件目（1人目）の事故	

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		犬の散歩中、クマと鉢合わせて攻撃を受け、重傷。	
発生日	年月日	令和4年5月25日	
	時刻	4:05頃	
	天候	晴れ	
発生場所	住所	仙北市田沢湖梅沢	
	山/里の別	里	
	環境	<p>杉林と川に挟まれた未舗装路上。杉林側はササなどで見通しが悪い。付近では堆肥用の米ぬかを堆積している。過去にもクマの出没があった場所。</p>	 <p style="text-align: right;">10月撮影</p>
被害者	年齢・性別	71歳・男性	
	行動目的	犬の散歩	
	行動人数	1人	
	クマ対策	なし	
	被害状況	重傷（顔面の裂傷および右腕骨折）	
加害個体	頭数	1頭	
	構成	単独	
	その他		
事故の状況		<p>犬（中型の雑種）の散歩をしていたところ、藪から飛び出してきたクマに引っかけられたほか、右腕を咬まれた。クマに飛びかかれた勢いでクマもろとも川に転落。その直後、クマは逃げていった。</p> <p>クマとの遭遇前の犬の様子はいつも通りで、被害者は異変を感じなかった。被害者が攻撃を受けている間も犬は騒がず、クマに飛びかかることもなかった。クマによる攻撃を受けたのは被害者のみ。</p>	
考察		<p>クマとの出会い頭の事故と推測される。ラジオや鈴などの対策によりクマとの鉢合わせを避けられた可能性はあるが、堰堤の水音でラジオ等の音が聞こえづらい環境である。見通しが悪いこと、音が聞こえづらいこと、付近に堆肥場があることなどから、クマと遭遇しやすく事故を防ぎづらい場所。薄暗い時間は特に、徒歩での通行を避けることが推奨される。また、犬を連れていることが必ずしも事故防止になるわけではないことを認識しておく必要がある。</p>	
今後の事故防止に向けて		<ul style="list-style-type: none"> ・クマの出没が予想される場所、時間帯の散歩を避ける ・米ぬかの堆積をやめる、もしくは堆肥場の周囲を電気柵で囲うなど、クマを居着かせない対策を実施する 	
その他		令和4年度2件目（2人目）の事故	

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		田んぼ作業中、クマの攻撃を受け、重傷。入院先の病院で3日後に死亡した。
発生日	年月日	令和4年5月25日
	時刻	15:30頃
	天候	晴れ
発生場所	住所	北秋田市坊沢
	山/里の別	里
	環境	<p>河畔林に隣接した田んぼ（事故発生地点を×印で示す）。河畔林にはさまざまな動物が利用しているとみられる獣道が確認された。</p> 
被害者	年齢・性別	78歳・男性
	行動目的	田んぼ作業
	行動人数	1人
	クマ対策	不明
	被害状況	重傷（顔面外傷）、敗血症性ショックにより死亡
加害個体	頭数	不明
	構成	不明
	その他	
事故の状況		被害者が田んぼの端でレーキをかけていたところ、もしくはレーキ作業が終わり田んぼから出ようとしたところ、河畔林の藪から出てきたクマから攻撃を受けた。
考察		被害者が攻撃を受けたタイミングやその前後の様子などの詳細が不明であることから、クマが藪から出てきた理由やそのきっかけを推測すること、理由に基づく対策を考察することが困難である。しかし、当該箇所を含め、クマはしばしば河畔林を移動帯として利用するため、今後も河畔林の近くで農作業等を行う場合は、クマが付近にいる可能性を念頭に置きながら注意する必要があると考えられる。
今後の事故防止に向けて		<ul style="list-style-type: none"> ・ 河畔林がクマの移動帯となっていることを認識する ・ クマが利用する可能性のある場所の近くで作業をする場合は、クラクションを鳴らしてから車を降りる、ラジオなどをつけて作業を行う、周囲の音に気を配るなどの注意を払う ・ 河畔林の環境整備を行う
その他		令和4年度3件目（3人目）の事故


ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		タケノコ採り中にクマに襲われ（重傷）、集めたタケノコを食われた。
発生日	年月日	令和4年6月13日
	時刻	6:40頃
	天候	晴れ
発生場所	住所	仙北市田沢湖玉川（過去の人身事故を受け、入林が規制されているエリア）
	山/里の別	山
	環境	ブナ林の中のササ藪
被害者	年齢・性別	51歳・女性
	行動目的	タケノコ採り
	行動人数	1人
	クマ対策	クマの忌避剤、鈴
	被害状況	重傷（右腕骨折、左腕裂傷、右足咬傷、頭部咬傷など）
加害個体	頭数	1頭
	構成	単独
	その他	
事故の状況		<p>被害者は友人と2人でタケノコ採りに行き、林内で別れて採取していた。約30分後に友人へ呼びかけたところ、20mほど先の藪からクマが顔を出し、被害者に向かって走ってきた。被害者は腕を咬まれるなどの攻撃を受けたが、途中で突然攻撃が止み、クマは被害者が集めたタケノコを食べ始めた。この間に被害者は顔への攻撃を防ぐため、うつ伏せの姿勢をとった。被害者の悲鳴を聞いた友人が駆けつけ、折った枝でクマを突いたところ、クマはすぐに被害者から離れた。しかし、一定の距離を保ったままでその場から立ち去らなかつたため、友人は枝で牽制を続けた。</p> <p>事故発生から約2時間後、2人は防災ヘリにより救助された（ヘリが上空に到着した時点で、ヘリからの吹き下ろしと音でクマの所在は分からなくなった）。</p>
考察		<p>加害個体は「人が集めたタケノコを食べることを覚えたクマ」と推測される。この場合、クマは積極的に人に近付いてくるため、一般的な対策（ラジオや鈴等）では事故を防ぐことができない。今後も同様の事故が発生する危険性があるほか、これまでも当該個体によるヒヤリハット事例があった可能性がある。</p> <p>被害者はうつ伏せになったことで顔面への攻撃を防ぐことができた。また、友人は枝で牽制することでクマから間合いを詰められずに済んだ。</p>
今後の事故防止に向けて		<ul style="list-style-type: none"> ・ 入林規制エリアには立ち入らない ・ 人に近付いてくるクマに遭遇した、持ち物や集めたタケノコが奪われたなどの危険な事例は行政に必ず報告する
その他		令和4年度4件目（4人目）の事故

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		田んぼの見回り中、クマと遭遇し攻撃を受けた。軽傷。	
発生日	年月日	令和4年6月14日	
	時刻	6:50頃	
	天候	晴れ	
発生場所	住所	大仙市協和船岡	
	山/里の別	里	
	環境	田んぼとスギ林・伐採跡地に挟まれた未舗装路上。付近には果樹園があり、毎年クマが目撃されている。	
被害者	年齢・性別	75歳・男性	
	行動目的	田んぼの水位確認	
	行動人数	1人	
	クマ対策	なし	
	被害状況	軽傷	
加害個体	頭数	1頭	
	構成	単独	
	その他		
事故の状況		未舗装路上を歩きながら田んぼの水位を確認しており、ふと顔を上げると約5m先にクマがいて、道路から斜面を上がっていくところだった。被害者が大声を上げると、クマが引き返してきて押し倒された。被害者は咬まれないよう、クマの口を掴みながら押し返し、道路脇の水路に押し込んだ。一旦クマは離れたが、水路から上がって再度被害者を押し倒した。被害者は再度クマの口を掴み、咬みつこうとするクマとの力比べになったが、ふとクマが離れて逃げていった。	
考察		歩いてきた被害者に気付いたクマがその場を立ち去ろうとしたが、大声に刺激され攻撃に転じたと推測される。声を出さずにそっとクマを見送っていれば接触を避けられた可能性があるほか、ラジオ等をつけながら歩いていけば、もっと早くクマが被害者に気づき、至近距離での遭遇を避けられたかもしれない。 一方で、クマとの接触後については、被害者が冷静に対応したことで、大きな咬傷受けずに済んだ。	
今後の事故防止に向けて		<ul style="list-style-type: none"> ・音を立てて人の存在をアピールし、至近距離での遭遇を防ぐ ・至近距離で遭遇したクマを刺激しない 	
その他		令和4年度5件目（5人目）の事故	

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		ゴミを出すため集落内を歩いていたところ、道路脇の藪から飛び出してきたクマから攻撃を受けた。軽傷。
発生日	年月日	令和4年6月30日
	時刻	8:20頃
	天候	くもり
発生場所	住所	鹿角市八幡平
	山/里の別	里
	環境	<p>集落内の舗装路上。 道路脇の藪（黄点線：写真は刈り払い後の状態）からクマが飛び出してきた。</p> 
被害者	年齢・性別	80歳・女性
	行動目的	ゴミ出し
	行動人数	1人
	クマ対策	なし
加害個体	被害状況	軽傷
	頭数	1頭
	構成	親子（3頭の当歳子連れ）
	その他	
事故の状況		被害者は徒歩でゴミ出しに向かい、小屋の前を通過したところ、横の藪からクマが飛び出してきた。被害者はクマとの間にゴミ袋を挟み、クマとの接触を避けたが、ゴミ袋ごと押された勢いで道路脇のU字溝に転げ落ちた。道路上に残ったクマは逃げかけたがすぐに引き返し、U字溝の中に落ちた被害者に一撃を加え、その直後に草むらに走り去った。
考察		<p>親子グマは藪の中で草もしくは地面に落ちたクワの実を食べていたと推測される。被害者の足音に気付いて逃げようとしたが、足の遅い当歳子が逃げる時間を稼ぐため、親グマが攻撃したと思われる。</p> <p>鈴などをつけていれば、より早く親子グマが被害者に気付き、余裕を持って逃げる事ができた（事故に繋がらなかった）可能性はあるが、集落の中に当歳子連れの親子がいること自体が問題。集落付近では春先から複数の住民が親子グマを目撃していたが、被害者はそれを知らなかった。</p>
今後の事故防止に向けて		<ul style="list-style-type: none"> ・集落周辺での目撃情報を住民どうしで共有する ・付近でクマの目撃があるときは、音を立てて人の存在をアピールして至近距離での遭遇を防ぐ ・クマは潜む可能性のある藪を刈り払う
その他		令和4年度6件目（6人目）の事故